



3
テーマは「愛・夢・絆・命」
教育フォーラムを開催

3月6日、学校・家庭・地域の教育フォーラムが文化会館で開催されました。約1100人が来場し、「愛・夢・絆・命」の4部構成で、それぞれテーマに沿った内容を児童生徒や保護者、地域住民らが発表。命がテーマの第4部では、市青年団協議会を中心に約150人が「こばやし発! 走れぞうれっしゃ」を歌い上げ、平和や命の尊さを伝えました。



1

Photo1 今年で17回目となる「ぞうれっしゃ」。2 認定こども園日章の園児らによる太鼓の演奏。3 家庭教育学級による発表。



2



3 26日には須木地区でイベント「せっかくウオーク」を開催



1
小林の絶景楽しみながら歩く
こばやし霧島連山絶景ウオーク

2月27日、28日に県内最大規模のウォーキングイベント第18回「みやざきツーデーマーチ・こばやし霧島連山絶景ウオーク」が行われました。北海道から鹿児島まで、2日間で延べ2300人が参加。市内の三之宮峡や陰陽石、生駒高原、出の山公園など市内各名所を回る5キロから30キロの4つのコースを思い思いのペースで歩きました。

市内水飲料製造会社3社が
商工会議所に協賛金を寄贈

3月2日、生駒名水(株)、(株)クリーン・アクア・ビバレッジと(株)野口総合研究所が商工会議所の植樹・育樹作業などの自然保全活動に対して協賛金を贈呈しました。会議所内3日20実行委員会の山之口志朗委員長は「小林の豊かな湧水を守るために大切に活用します」と話していました。



協賛金は自然環境保全に活用されます。今回は、県道1号線の旧料金所跡にヤマザクラを20本植樹する予定です



こすも〜丼は、宮崎牛やゴボウなどを使った牛丼。児童は「お肉が柔らかい」「もっと食べたい」など口を揃えていました

日本一の宮崎牛が給食に
児童生徒らこすも〜丼味わう

2月29日、和牛生産者団体が寄贈した宮崎牛を使った「こすも〜丼」が市内全小・中学校の給食で提供されました。当日は、和牛農家と小中学生の交流給食を実施。東方小を訪れた西水流豊さんは「日本一の宮崎牛を子どもたちに味わってもらい、誇りに思ってもらいたい」と話していました。

ジャズシンガー綾戸さん講演
健康介護予防フェスティバル

2月20日、こばやし健康介護予防フェスティバル2016が文化会館でありました。約700人が来場し、健康関連のイベントや講演会などを実施。講演会では、ジャズシンガーの綾戸智恵さんが自らの母親の介護の経験話し、「親子の関係を考え母の気持ちになって接することが大切」と訴えていました。



講演する綾戸さん。そのほか、認知症サポーターリーダーや健康推進員などの活動報告、介護予防体操や抽選会なども行われました



表彰式では、西小林小の今藤誠一教頭、永久津小の黒木義昭教諭、永久津中の浜田容子教諭が一席を受賞しました

先進的な教育への理解深める
教育研究センター発表会開催

2月18日、小林市教育研究センター調査研究発表会並びに教育研究論文・授業論文表彰式が文化会館でありました。本年度の市教育研究センターの成果や教育研究論文・授業論文の発表、表彰式などを実施。市内小中学校354人の教諭などが出席し、先進的な研究への理解を深めました。

地域包括ケアシステムの充実へ

2月23日、一般社団法人西諸医師会（高崎直哉会長）本館で、西諸地域在宅医療介護連携推進協議会の第1回



となる専門部会合同会議が開かれました。同医師会の園田定彦先生や田原徳人先生などが部会長に就任し、事業の具体化を推進します。

小水流さんソフトテニスで全国へ

2月25日、うっちゃまソフトテニススポーツ少年団の小水流里奈さん（三松小5年）が全国大会出場を市長に報告しました。



小水流さんは、2月に行われた県大会で優勝し、全国大会の出場権を獲得。全国大会に向け「力を出し切り、優勝を目指したい」と意気込みを述べました。

小林中女子ハンド部九州大会に出場

3月17日、小林中女子ハンドボール部が九州大会出場を市長に報告しました。1月に行われた県大会で3位に入り九州大会への出場権を獲得。



主将の内嶋美波さんは、「感謝の気持ちを忘れず、まずは一勝したい」と意気込みを語りました。

「ンダモシタン小林」が、んだもしたん。

昨年8月に公開され、再生回数185万を超えるヒットとなった移住促進ムービー「ンダモシタン小林」が、平成27年の



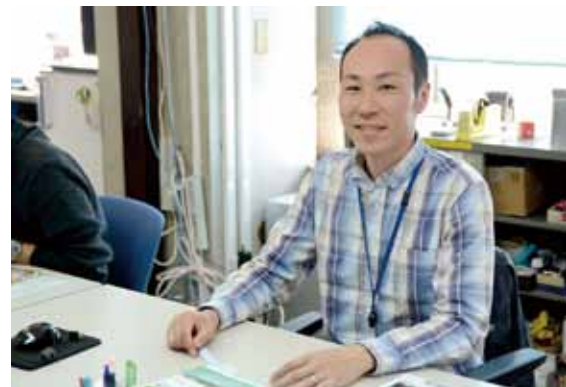
優秀な広告作品に贈られるJAA広告大賞経済産業大臣賞と優秀なデジタルコンテンツを表彰する第21回AMDアワード「リージョナル賞」を受賞しました。



朝長支店長と肥後市長。この回線は、停電時にも利用でき優先電話となっているため、災害時でもつながりやすくなっています

須木に災害時用公衆電話設置 NTT 西日本(株)と協定締結

3月16日、NTT西日本(株)宮崎支店と市は「災害時における特設公衆電話の設置・利用に関する協定」を締結しました。須木の避難所7カ所に、災害時用の特設公衆電話回線を設置します。同社朝長和彦支店長は「災害時、家族の安否確認や被害状況の確認など通信手段の確保は必要不可欠」と話していました。



山本さんの前職は整骨院の施術スタッフ。整骨院開業を目指しながら、自らをモデルとした起業支援システムの構築に従事します

11人目の地域おこし協力隊 京都出身の山本新さん着任

地域活性化と定住・定着を目的とした総務省の「地域おこし協力隊」事業で、山本新さんを市の11人目の隊員として委嘱しました。3月から着任し、地方創生課で勤務。山本さんは「地域の健康づくりや子どもたちが安心して遊べる場所を作りたい」と意気込みを話しました。

地域活性化や健康増進目指しのじりこウオーキング大会

3月6日、のじりこウオーキング大会が行われました。クラブのじり主催で地域の活性化や健康増進などを目的に開催し、市内外から244人が参加。参加者らはのじりこびあ遊歩道周辺に用意した、7キロから2キロの自然に囲まれた3コースを思い思いのペースで歩いていました。



野尻湖畔を歩く参加者ら。大会終了後は、めろめろメロンなど地元特産品が当たる抽選会やミニ物産展なども行われました

農家民泊とITの技術で 西諸地域を活性化させる

「宮崎と東京をITでつなぐハッカソン（株）NTTデータ主催」が3月12日、13日に東京で行われました。ハッカソンとは、IT技術者などが集まり、アプリやプログラムの開発などのアイデアと技術を競うイベント。約50人が参加し、農家民泊の活性化をテーマに、さまざまなアプリの素が提案されました。



東京でのハッカソンの様子。3月23日、24日には、実際に参加者12人が農家民泊を体験し、開発したアプリの実証実験が行われました



卒業証書を一人ずつ手渡しする内村大介校長。「辛く厳しいことがたくさんあると思うが常に未来を見てほしい」と話していました

16人が准看護学校を卒業 看護の道を歩み始める

3月3日、一般社団法人西諸医師会小林准看護学校の卒業式がありました。16人の生徒が看護師としての決意を胸に親しんだ学舎に別れ。卒業生を代表して、中園明日香さんが「人の命を預かる重大さと責任を感じながら、看護の道をひたむきに前進して行きます」と決意を述べました。



左から東方中の沼田忠志校長、中屋敷教育長、肥後市長、塚本校長。市では、今後市内全学校の優良校認定を目指しています

県内初。東方小・中学校が 学校情報化優良校に認定

3月10日、東方小・中学校が日本教育工学協会の学校情報化優良校の認定を受けたことを市長に報告しました。教育の情報化を進めた学校を認定する制度で県内では今回が初めて。同小塚本奈津子校長は「デジタル教科書やタブレットなどで効果的な授業ができている」と話していました。